

2017年 4月 4日

## 助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 R.I.La

代表者・役職名 氏名 理事長 清宮祥子



### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

多摩川中流域並びにその支流域における放射能の土壌汚染と生体に対する影響について

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011年9月東大和市内の環境放射線の調査を開始する。2011年12月東大和市民が提供する食品等の簡易放射線検査を開始する。2012年4月当会設立に関する理事の一人が放射線取扱主任者資格を取得する。2012年9月東大和市新堀に研究所を開設し、より専門的な環境放射線の調査を開始する。  
2013年8月 特定非営利活動法人 R.I.La 法人登記現在に至る。現在会員数 12名。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

NPO 法人 R.I.La が 2011 年より培った環境放射線調査のノウハウと、主任研究員が有する「放射線取扱主任者」の国家資格を活かし、多摩エリアの子供達の脱被ばく環境を守り、無安全安心に多摩川の自然を楽しんでほしいと考えたことが本プロジェクトを始める動機であり、多摩川を利用する人たち、特に子供達に対して注意喚起を促し、管轄を行政機関に対しては、汚染土の除去や除染を促し、また、安全が確認された場所については、安全・安心に子供達にその場所で自然と接することができる環境を提供することを目的といたします。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

多摩川中流域並びにその支流(源流域を含む)において、河川敷に生育する植物並びに流水内に生息する魚介類と土壌の放射能汚染の状況を調査し、その因果関係を特定すると共に、多摩川流域における放射能汚染のメカニズムを解析します。調査する生体については、植物類は河川敷に生息するノビル、ヨモギ、ツクシ等の食用として採取される可能性がある植物とし、魚類については雑食性であり、長く生息する鯉を検体として選定しました。また、河川敷の土壌については今回調査を実施した中流域は河川工事により、調査を目論んでいた河川敷の土壌の多くが工事によって削り取られてしまったことを鑑み、土壌に関しては植物を採取した場所に留め、それ以外では新たな調査方法として「リネン布による水質内の放射性核種の含有量の調査」を試みました。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今回の調査によって、2011年の原発事故当時に直接多摩川水域に降り注いだ放射性核種については、その代表的に放射性核種である放射性セシウム 134 はすでに半減期を迎え、セシウム 137 についても事故より 5 年余りを経過することによって、全体の約 20%程度は減衰し、事故当時と比較すると確実にその減衰が進んでいますが、事故から 5 年余りを過ぎた現在でも、未だに河川の外部から河川内に対して放射性核種が流入し続けていることが判明しました。河川敷の土壌は一部雨水が集約する場所がホットスポットとして現存することを除けば、土壌の線量は市街地の線量と同等程度であり、生体に移行するほどの

放射線量ではないですが、水質内にはいまだに放射性セシウムが溶存され、魚類にはその影響がみられる。河川内に流入する経路やそのメカニズムに関しても、おおよそ仮説を立てられる状況まで調査を進めることが出来ました。

#### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回の調査で判明した水質内の放射性核種流入のメカニズムを解明し、原発事故に起因する放射性核種の汚染がどの様に発生し続けるかを解明する為の方法が明確となったことを踏まえ、今後は今回の調査をより深耕させ、今後、将来の為に河川における放射能汚染がどの様に発生し、どのようなことに注意しどのような対処を実施するべきか、という指標づくりを行うために、調査を継続して実施して行く必要性を強く持ちました。

#### 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり





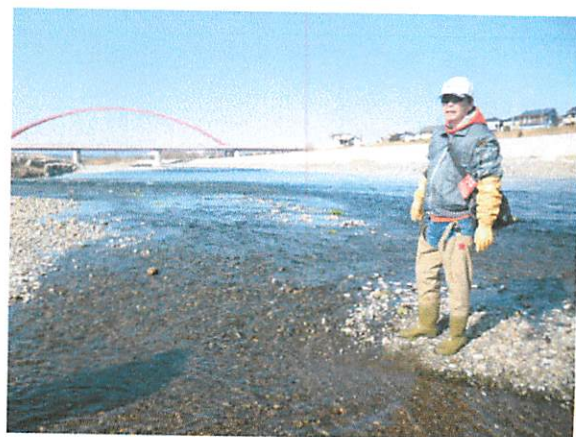
根川合流点で捕獲した鯉



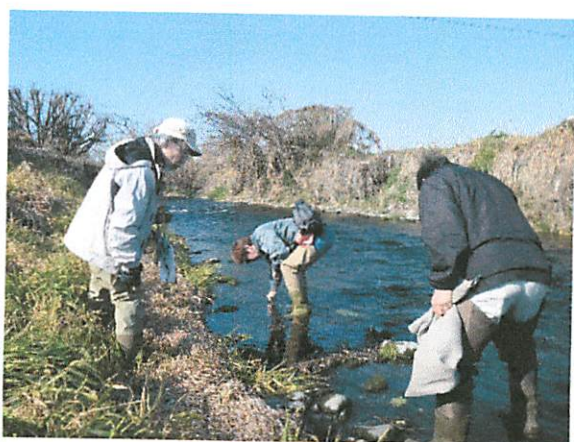
採取した鯉を現場で検体用に解体する



日野水再処理センター排水口根川



八王子水再処理センター排水口と多摩川合流点



日野水再処理センター排水口での作業



多摩川の河川敷で採取したヨモギ